



人と環境にやさしいトランジットモデル都市をめざして RACDA

第 178 号

2018 / 6

岡山市公共交通網形成 計画の法定協議会開催

■西大寺線へのめぐりん参入問題を契機に、両備グループの31路線廃止届け、撤回、スト表明、料金收受ストと混乱を極める岡山バス問題を解決すべく、5月21日岡山市公共交通網形成の法定協議会が開かれた。この間岡山市・総社市はJR西日本と吉備線ライトレール化の合意を発表する一方、吉備線沿線に展開する中鉄バスは運転手不足によりバス3路線の体止届を国に出すなど、公共交通全体の将来像をどう描くかが大きな社会問題となっている。なお両備グループの労使交渉では、2年間路線廃止しないとの合意をしている。めぐりんが走り始めたいま、路線廃止は留められないとも取れる内容である。

■当日はラクダも申し入れて、公開が原則の協議会会場が市役所7階の大会議室に変更になり、日本全国最大の法定協議会開催となった。委員24人、随行者18人、岡山市9人の他、マスコミ41人、傍聴者も全国からの25人、合計117人が集まり、議事は既に動画サイトにも掲載され、透明性が一気に高まった。各社の発言内容はラクダがテープ起しして、facebookに掲載した。各社はそれぞれ本音を開陳し、路線維持への意欲は示したものの、人手不足による路線維持の困難さが顕在化した。新規参入については賛否両論で計画策定は前途多難だが、18年度中に計5回の法定協議会を開き計画素案を策定。19年度前半に成案化、路線の再編実施計画をめざす。めぐりん参入の是非についても、必要に応じて議論の余地を残した。

以下、各社の主張を要約。JR西日本はラクダにより要約、バス会社は山陽新聞要約を引用。

■JR西日本 利便性サービスを事業経営として持続的に提供・向上できるかが課題。鉄道はバス等とは異なり、線路や橋梁など走行路を自前で持つ。高速大量輸送を得意とするも、固定的な費用、多くの人手が掛かる。岡山県下では人口減少、利用減少、収益先細り、人手の確保が難しくなりつつある。

安全面やバリアフリー等の設備面もお客様や社会の要求水準が高まり、対応が負担。幹線の山陽本線といえど、昼間2-3輦の電車が1時間に8本走る程度、大量輸送としての鉄道の持ち味をフルに発揮してない。秋には全国共通のICカードICOCAの提供エリアを拡大、駅のリニューアルの際バリアフリー化を推進、情報提供を充実。サービス向上の一方で、機械化を進め、サービスレベルと経営の充実を図る。岡山の魅力を発掘してエリア外で発信する活動、交流人口の拡大、観光誘客で交通も潤っていく。

事業者の自助努力だけでは限界。吉備線ライトレール化では負のスパイラルからの脱却をめざし、将来に渡って持続的な新しい都市交通を実現しようと、岡山市・総社市と検討。バスやタクシー事業とのアクセスも、岡山市や事業者の皆様と連携して取り組んでいく。交通は都市・町の装置であり、街づくりや都市の成長を支えるインフラ、街づくりとセットで岡山市など行政と連帯して取り組む。

■小嶋光信・両備グループ代表 黒字路線に新規参入されると赤字路線が維持できないことを問題

NPO 法人公共の交通ラクダ(RACDA)

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F TEL&FAX 086-232-5502

E-mail:info@racda-okayama.org

URL:http://www.racda-okayama.org

RACDA

検索



提起した。数少ない黒字路線だけに進出するのはクリームスキミング（おいしいとこ取り）だ。公共交通の再生は法整備、財源確保、利用促進の3点がそろわねば難しい。将来的には事業者同士が「交通連合」で手を携え、持続可能な公共交通を実現する必要がある。

■**松本嘉一郎・中鉄バス常務** 岡山市北区の大井、足守地区を運行する路線バスを9月から体止することになり、国土交通省中国運輸局に届け出た。数年前から急に退職者が増え、求人しても人が集まらないのが現状だ。乗務員の高齢化が進み、燃料代も負担になっている。乗務員を確保できれば体止届を取り下げたいと考えているが、予断を許さない状況だ。

■**宇野泰正・宇野自動車社長** 4月に自動運転バスの試乗会を行った。データを集めて実用化できるか分析するが、コスト削減ができ、増便や運行地域の拡大につながると思っている。不採算路線では運賃を上げたり、(大型の) バスではなくワンボックスや軽四の利用でコストを下げたりすることも可能ではいか。路線についての実態調査が必要だ。

■**政森毅・備北バス社長** 利用の多くは病院や買い物時の交通手段。少子高齢化の中、どのように公共交通を守っていくかは難しい問題だ。さまざまな路線があり、お客さまにどう利用してもらうか、一から考え直していきたい。協議会を通じて、個々の事業者の考えではなく、県バス協会として意見を出し合い、公共交通の在り方について議論したい。

■**永山久人・下津井電鉄社長** 不採算路線の赤字は不動産収入などを充て、市民の足を守ってきた。グループ企業の手で収支は維持できても、乗務員不足は深刻。乗務員が足りずに路線縮小や減便の可能性もある。岡山駅周辺の渋滞も課題で、道路の構造改善などを岡山市にお願いしたい。市町村をまたぐ路線も多く、県全体として公共交通を考える必要がある。

■**成石敏昭・八晃運輸社長** 益野線は適法かつ適正に申請し、認可されたと理解している。競合他社がストライキなどで市民に不安や動揺を与えたことは残念だ。協議会では不採算路線の維持に向けた行政の支援充実やインフラ整備などの議論を望む。黒字路線の競争と赤字路線維持の問題は切り離し、利用者の利益になる方向でそれぞれ話し合うべきだ。

■一連の経緯とラクダかわら版の内容

2/8 両備岡電 31 路線廃止届けを発表、同日めぐりん認可、西大寺 250 円

2/9 朝日新聞・大阪全国版に両備岡電 31 路線廃止記事が報道→ネットで拡散

2/13 石井国交大臣、国交省も議論に参加すると表明

2/15 倉敷・瀬戸内・玉野 3 市長が存続に協議会設置を岡山県に要望

2/16 国会地方公聴会にて、小嶋会長陳述

2/22 津村議員衆議院予算委員会で質問、安倍総理は国交省協議参加を表明

2/24-25 高井議員、総務委員会・予算委員会で質問

★3/4 京橋朝市・交通井戸端会議かわら版「岡山電車バス大論争！岡山市は交通連合を目指せ！」

3/5 両備岡電 2 回目の記者会見、廃止届けの期限を一律 3/31 とし、すべて残す相談をしたい

3/14 両備岡電 3 回目の記者会見、岡山市など 4 市長の要請により、廃止届けの取り下げ

3/22 「県地域公共交通対策検討会」関係者だけで開催

3/31 めぐりん 4/27 運行開始を発表

★4/1 京橋朝市・交通井戸端会議かわら版「岡山電車バス大論争、皆様のご意見一覧」

4/9 両備岡電めぐりん認可取消を運輸局に申入れ

4/10 両備岡電 4 回目の記者会見、岡山市のバス停手続不備指摘、報道

4/12 両備労働組合 23 日ストを岡山県に通知 4/13 両備労働組合 26-27 日ストを岡山県に通知

4/16 岡電組合 27 日スト通知、同日報道、その後無期限ストも示唆

4/17 両備岡電めぐりん益野線参入取り消しを求めて東京地裁に提訴

4/19 岡山市めぐりん益野線バス停設置で道路占有許可は有効とし通知

4/20 両備岡電は岡山市に抗議

4/25 両備岡電の労使交渉妥結、終日ストを集改札ストに切り替え表明

4/27 めぐりん西大寺線参入、両備西大寺線・岡電路面電車終日集改札ストライキ実施

★5/6 京橋朝市・交通井戸端会議かわら版「桃太郎ライトレール LRT バスも 1 日 30 便へ GO！」